

令和7年の職場における熱中症による死傷災害の発生状況

令和8年5月
富山労働局

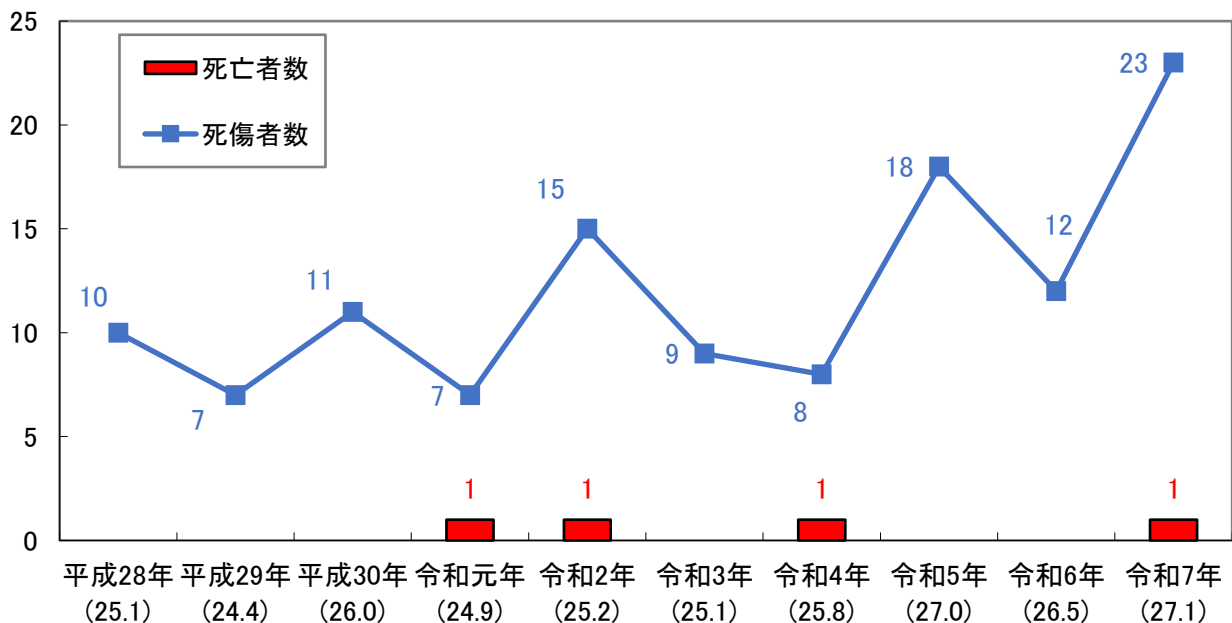
1 職場における熱中症による死傷者数の推移（過去10年間）

富山県内における、令和7年の職場における熱中症による休業4日以上之死傷者数は、令和6年より11人増加して23人となり過去10年間で最も多くなった。また、死亡者が1人発生した。（令和8年4月30日時点）※

増加した要因は、令和7年の夏季（6月～8月）における平均気温が令和6年より高かったことが原因と考えられる。

また、気象庁によると令和8年の夏は、全国的に気温が平年より高くなるとされており、引き続き、熱中症リスクが大きくなることが懸念される。

職場における熱中症による死傷者数（H28年～R7年）



※ 括弧内の数値は6月～8月の平均気温（℃）を示す（気象庁HPの気象データから引用）

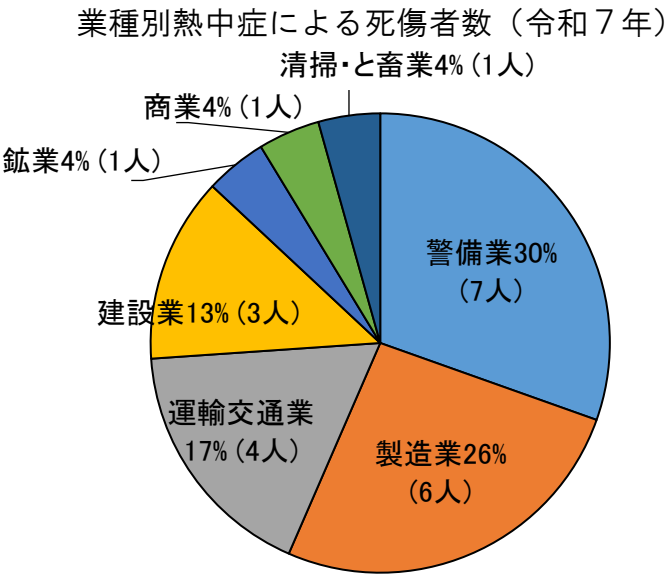
2 業種別発生状況

令和7年の職場における熱中症による休業4日以上之死傷者数（以下「熱中症による死傷者数」という。）を業種別にみると、警備業が7人（32%）で最も多く、次いで製造業6人（26%）、運輸交通業4人（18%）、建設業3人（14%）となった。このほか、鉱業、商業及び清掃・と畜業でそれぞれ1人（5%）発生した。

なお、死亡災害は製造業の事業場で発生した。

職場における熱中症の発生事例としては、交通誘導、建設工事又は荷の積み下ろしなど、屋外での作業中に発症したものが多くを占めた。屋内であっても、空調設備がない場

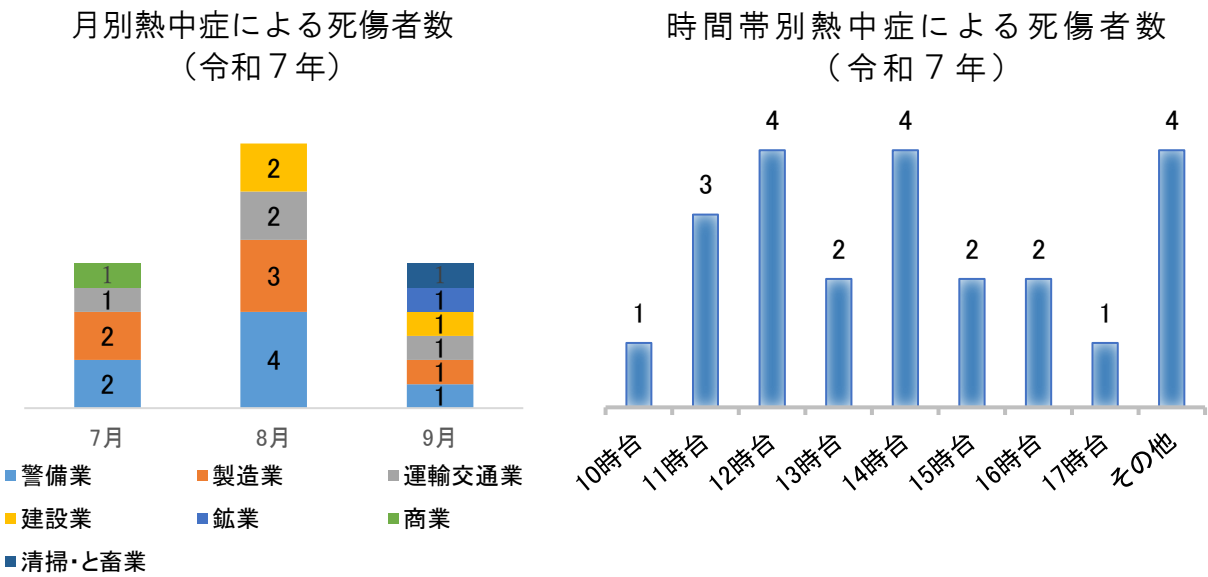
合や空調設備があっても十分に効いていない場合、通風が不十分、高温多湿など、暑熱な環境下で発症したものがあつた。また、気温が高い場所で休憩を行い体調が悪化したとみられる事例があつた。



3 月別・時間帯別発生状況

令和 7 年の熱中症による死傷者数を発生月別にみると、8 月が 11 人と最も多く、全体の約半数を占めた。

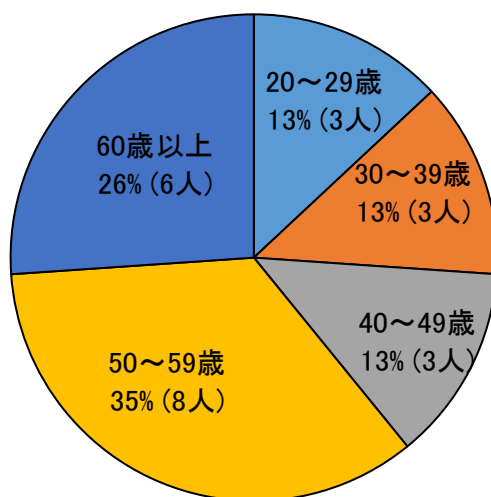
時間帯別にみると、12 時台及び 14 時台が 4 人で最も多く、13 時台、15 時台及び 16 時台はいずれも 2 人、17 時台に 1 人発生しており、全体の半数以上が午後に発生した。



4 年代別発生状況

令和7年の熱中症による死傷者数を年代別にみると、60歳以上が6人、50歳代が8人と全体の63%を占めており、次いで20歳代及び30歳代、40歳代が各3人となった。

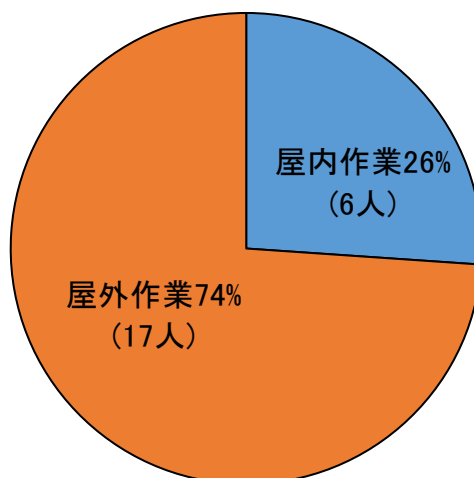
年代別熱中症による死傷者数（令和7年）



5 被災者の従事業務の屋内外別の状況

令和7年の熱中症による死傷者数を従事作業の屋内外別にみると、屋外作業が17人、屋内作業が6人となった。

屋内外別熱中症による死傷者数（令和7年）



6 死亡災害事例（過去 10 年間）

令和 7 年に死亡災害が 1 件発生したほか、過去 10 年間では職場における熱中症による死亡災害が以下のとおり発生している。

いずれも単独作業時や一人でいるときに発症・重篤化している。

発生年月 時間帯	業 種	年 齢	経験年数	気温	湿度	事案の概要
R元. 6 13 時台	製造業	40 歳代	1年未満	29.8 ℃	77%	暑熱な工場内での業務を終了し、帰宅のため駐車場に向かったところ、駐車場で倒れ、病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。
R2. 5 13 時台	製造業	30 歳代	9 年	29.7 ℃	59%	午前中から、直射日光の下、屋外で機械修理を行っていたところ、正午過ぎ頃までに体調不良となり、事務所で休憩していたが、症状が回復せず、夕方、救急車で病院に搬送されたものの、熱中症が原因で死亡した。
R4. 6 不明	農業	50 歳代	33 年	29.3 ℃	68%	農場の見回りに行った被災者が、農場近くの路上で、社用車の中でぐったりしているところを発見され、その場で死亡が確認された。 屋外作業を行っていたことなどから、死因は熱中症とされた。
<u>R7. 7</u> <u>12 時台</u>	<u>製造業</u>	<u>40 歳代</u>	<u>1年</u>	<u>31.7</u> <u>℃</u>	<u>70%</u>	<u>設備の補修作業を行っていた被災者が休憩所に戻って来なかったことから、同僚が様子を見に行ったところ、意識不明の状態で見えられ、救急搬送後に死亡が確認された。</u>